



ユツユツ とことん

大仙市立太田中学校
令和4年7月5日
NO. 48



うららかに たくましく ~ 耕し 萌えたち みのらせ さきみだる~

グローバル人材育成のきっかけに

本校には他校に自慢できる様々な取組があります。花壇活動や被災地交流はもちろんですが、グローバル社会と言われる現代を生き抜くためにグローバル人材の育成を目指す学習「**インターナショナルデー**」もその一つです。昨年から全校で行い、今後長く実施しながら本校の特色、誇りと言っても過言ではない取組にしていきたいと思っています。

その「インターナショナルデー」を、本校ALTのゼイン先生(7月で退任します)が退任する前に、「**他国の文化に触れることで、国際理解(交流)の心を育てる**」「**日常生活で関わることが少ない大仙市のALTの先生方と接することで、進んで英語を使いながら楽しくコミュニケーションを図ろうとする意欲を育てる**」ことをねらいとして、今日7月5日(火)の午前に実施しました。



講師を務めてくださった大仙市のALT、CIRの先生は11人、国籍もアメリカ、カナダ、イギリス、オーストラリア、ニュージーランド、シンガポール、ジャマイカと様々です。

オープニング集会の後、ALTの先生方には、二つのワークショップで、自国の文化やスポーツ、地理、歴史、ゲーム等について、子どもたちとコミュニケーションをとりながらワークショップ(アクティビティ)をしていただき、子どもたちは自分が選んだ先生の授業に参加することで、英語とともにその国について学びました。子どもたちの順応性は大人以上のものがあります。ALTの先生方の上手なリードもありましたが、積極的にコミュニケーションしようとする姿勢や楽しそうな笑顔が、この活動の意義を物語っているようでした。とても有意義な時間を過ごすことができました。



日本の英語教育は、これまで「読む」「書く」が中心でしたが、今の時代、より必要とされることは「聞く」「話す」だとも言われます。英語でのコミュニケーションは、これからの社会を生きていくために比重の大きいものになってきています。オリンピック・パラリンピックが行われ、海外からの観光客の受け入れも拡大されてきている今、秋田にもインバウンド(外国人が日本に訪問する旅行)が増えてきています。恥ずかしさや自分の英語が通じるかの不安よりも、まずは英語を話そうとする気持ちや意欲が大切で、それがグローバル人材への第一歩かも知れません。

英語の重要性は至る所で論じられ、疑いのないところです。英語力とともに英語でコミュニケーションしようとする意欲や態度は、今や身に付けなければならない必須の力と言ってもいいのかも知れません。その意味で、「インターナショナルデー」がきっかけになってくれるのではと感じたところです。

お待ちしております PTA

6月7日付でご案内いたしました、明日7月6日(水)はPTAです。

携帯電話やスマートフォンは今の時代には必要不可欠なものとなっています。ネット事情の進歩は急激で、新しいアプリが次々に開発され、利便性も向上していますが、不適切な利用も増大し、様々な社会問題に発展しています。だからこそ、数々の事例を他人事とせず、自分事として捉えなければいけないと思いますし、最も大切なことは意識と自制心ではないかとも思います。実際のところ子どもたちよりも大人の方が分かっていないのが現状です。買い与える大人の責任を自覚しながら、私たち大人が継続してもっと勉強しなければと感じています。その機会の一つとしていただければ幸いです。

また、各学年PTAでは、学年別の生活や学習の歩みや夏休みのこと、子どもたちの成長等についての大切な懇談がなされるものと思います。

親子講演会の前には、文化部激励会、県南吹奏楽コンクールに臨む吹奏楽部の壮行演奏会もありますので、ご案内通知をご確認ください。